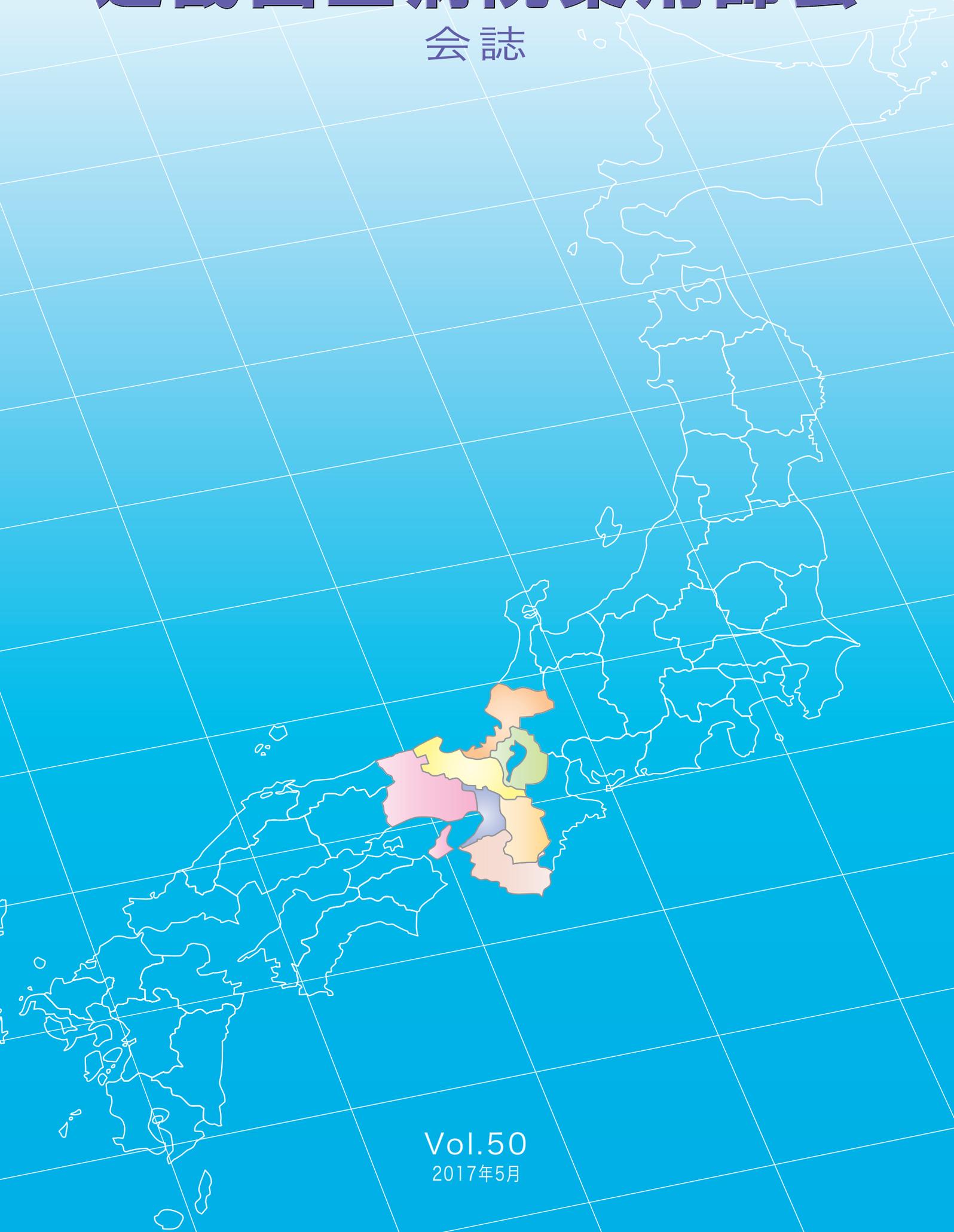


# 近畿国立病院薬剤師会

会誌



Vol.50

2017年5月

## 目 次

提言～「覚悟」をもってスキル、専門性を磨こう～.....	2
東近江総合医療センター	古川 哲也
薬剤部紹介.....	3
舞鶴医療センター	井上 敦介
実務実習生合同成果発表会を終えて.....	5
大阪医療センター	佐光 留美
平成 29 年度 近畿国立病院薬剤師会学術大会 学術集会報告.....	7
東近江総合医療センター	朝日 信一
平成 29 年度 近畿国立病院薬剤師会学術大会 学術講演会報告.....	9
神戸医療センター	鷲田 依美里
「平成 29 年度 新採用職員(コ・メディカル部門)研修」に参加して.....	11
姫路医療センター	溝口 捺美
神戸医療センター	桶谷 芳里
「第 32 回 日本静脈経腸栄養学会」に参加して.....	13
姫路医療センター	中西 剛志
「日本臨床腫瘍薬学会学術大会 2017」参加報告.....	14
神戸医療センター	中本 有香
「第 4 回 重症心身障がい児・者に関わる薬剤師講習会」を受講して.....	15
兵庫あおの病院	赤井 裕子
新採用者紹介.....	17
趣味のページ～パンダにならないように～.....	24
京都医療センター	小田 亮介
編集後記.....	25

## 提言

～「覚悟」をもってスキル、専門性を磨こう～

東近江総合医療センター 古川 哲也

昨年10月に薬剤部長として赴任し約半年が過ぎ、部門長としての立場で出席する会議等にも時にはよろけながらも何とか対応出来るようになってきたと自分では思っている。

当医療センターは全国的にも珍しい形態が取られており、滋賀医科大学の寄附講座（総合内科学講座、総合外科学講座）が教育活動拠点として設置されている。そのため、多くの教官が出向という形で在籍されている。

その中でも、多くの会議に同じく出席することになる2名の副院長は其々内科と外科の教授であり当初はその対応に相当腐心した訳である。しかし、最近では相変わらず会議では鋭い質問に対応を迫られることもあるが、宴席ではある程度楽しく会話させて貰えるようになった。

ある宴席で、当院で開催したがん診療セミナーについて副院長同士が議論を始めた。当初はセミナーで発せられた質問に関するものであったが、話題はチーム医療に移っていった。最終的には、今や医療は医師だけで完結できるものではなく、チーム医療が重要だという一般的な事で二人の議論は落ち着いた。しかし、そのチームでは彼らと対等で各専門の立場から意見やアドバイスをを行うレベルにあることが前提と当然のように言われた。

既にこのレベルにある薬剤師は多く存在し、国立病院機構にも居られることは承知しているが、我々は期待される分相当な「覚悟」をもってスキル、専門性を磨き業務に臨む必要性を改めて感じた。今後の人材育成においてもこの「覚悟」を持ってもらうことを念頭に置いていきたい。

少し話は変わるが、囲碁でコンピュータが勝つのは、10年以上先のこと。これが囲碁界の主な認識だった。しかし、2016年3月9日～15日。世界チャンピオンを何度も獲得した韓国の棋士とAI（人工知能）「AlphaGo（アルファ碁）」の五番勝負が行われ、AIが4勝1敗で勝ち越した。

このようにAIは驚異的な進歩を続けているが、イギリスのオックスフォード大学が発表した *The Future of Employment* という論文によると、現存する職種の47%がAIによって奪われるそうである。また、これによると薬剤師が今後10-20年で仕事を奪われる可能性は1.2%だそうだ。こうみると、薬剤師が仕事を奪われるのは、かなり先のように思われるがこの調査対象はアメリカであり日本の場合パーセンテージは違って来るであろう。高度なコミュニケーション能力を要する仕事はAIに置き換わり難いとされている。

我々は今後もこの「覚悟」をもってスキル、専門性を磨き続けてこそ、チーム医療を通じて、医療における確固たる地位を確立・維持していく事が出来るのでありと考える。

# 薬 剤 部 紹 介



## 【病院概要】

舞鶴医療センターは、京都府北部の舞鶴市に位置しています。舞鶴市は日本海に面した港湾都市であり、美しく広がるリアス式海岸の舞鶴湾の絶景は「近畿百景第 1 位」にも選ばれており、「海の京都」として知られています。また、近隣の観光地には日本三景の一つである天橋立があり、舞鶴若狭自動車道だけでなく、京都縦貫自動車道の全線開通によって、京阪神地区からも 2 時間程度でアクセス可能となりました。

当院は、明治 34 年に舞鶴鎮守府の海軍病院として創設され、昭和 16 年に現在の地に移転されました。終戦後は、舞鶴鎮守府病院として引揚患者の上陸第一病院に指定され、引揚患者の収容治療や転送の第一業務を担いました。このように近代日本史とともに歩んできた歴史的背景を持つ病院ですが、平成 16 年 4 月の国立病院の独立行政法人化に伴い、「独立行政法人国立病院機構 舞鶴医療センター」に名称変更され現在に至ります。



当院の特徴ですが、精神科病棟（病床数 120）を持つ精神医療に関する基幹医療施設であり、近畿の国立医療施設の中心的役割を担っています。また、SCU 6 床を有し、京都府中丹医療圏における救急センターとしての機能も果たしています。その他、京都府がん診療連携病院、エイズ治療拠点病院、認知症疾患医療センターにも指定されており、昨年には緩和ケア病床を含めた新病棟が竣工し、京都府北部だけでなく北近畿における地域中核病院

として機能しています。

#### 【薬剤部概要】

薬剤部は薬剤部長、副薬剤部長、主任3名（調剤主任、治験主任、薬務主任）、薬剤師10名、薬剤助手2名の17名で構成されています。当センターでは平成26年9月よりSCU、NICU、精神科急性期病棟を除く7病棟に専任薬剤師を配置し、病棟薬剤業務実施加算の算定を開始しました。本年4月からは、SCU、NICUに対して病棟薬剤業務実施加算2の算定を開始し、急性期病棟においても薬剤師の職能を生かすべく活動を開始しています。院内の多岐にわたるチーム医療（PCT、ICT、NST、認知症ケアチーム、褥瘡、嚥下）にも積極的に参画しており、多職種との連携強化も図っています。

また、当院の薬剤師は舞鶴薬剤師会にも所属しており、当院の地域医療研修センターにて毎月開催される学術講演会や定期的な委員会活動などを通じ、近隣の病院薬剤師や薬局薬剤師と親睦を図りながら薬薬連携にも取り組んでいます。さらには、舞鶴市教育委員会より当院の4名の薬剤師が学校薬剤師として委任されており、学校環境衛生の向上や改善に貢献すべく活動しています。その他、病院行事として出張健康講座も開設されており、薬剤師も講師として参加することで、地域の皆様にお薬に関する情報を提供しています。

最後に、今年度は薬剤師外来の開設を予定しており、術前の服薬状況を確認し安全な手術運営に繋がられるようその事前準備に取り組んでいます。来年度には電子カルテの更新も控えており、薬剤部門システムの見直しを含め、業務の効率化を図るべく様々な取り組みを行っていきます。



（文責：井上 敦介）

## 実務実習生合同成果発表会を終えて

教育研修委員会 薬学教育副小委員長  
大阪医療センター 佐光 留美

平成 29 年 3 月 18 日（土曜日）、実務実習生合同成果発表会が開催されました。学生参加者は 84 名（うち見学者 4 名）、大学関係者は 26 名、近畿国立病院薬剤師会の会員参加者は 125 名と多数の方々にご参加いただきました。今回で 4 回目の開催となる実務実習生合同成果発表会は、ワークショップとポスター発表（第 1 部、第 2 部）の構成で開催されました。

ワークショップは 8 つのグループに分けて行われました。課題は 4 つ、「薬剤委員会」、「医薬品安全管理委員会」、「臨床カンファレンス」、「IRB（治験）」で、各グループで 1 つの課題に対してディスカッションを行いました。学生参加者には事前に課題を近畿国立病院薬剤師会ホームページで公開し、準備した上で参加いただいたことにより、活発なディスカッションが繰り広げられました。各グループのファシリテーターには近畿国立病院薬剤師会会員の中から、経験豊富な中堅薬剤師の先生にお引き受けいただき、各グループの最初の雰囲気作りから最終的な発表にいたるまで、適切なアドバイスをいただきました。今回は発表時にインタビュアーが会場内をまわるといった試みがなされ、多角的なディスカッションに繋がったと考えています。



ポスター発表は第 1 部、第 2 部からなり、合計 29 演題の発表が行われました。ワークショップ終了後には、学生参加者、大学関係者、会員が熱心にポスター閲覧する様子が見受けられました。ポスター発表は 4 つのグループが同時進行する形で進められ、それぞれ座長の先生の進行により活発な質疑応答が行われました。



また、開催にあたり、準備段階から教育研修委員会の委員の先生方、事務局の先生方、チーム医療委員会の先生方にご協力いただきました。課題の作成においては、チーム医療委員会の先生方にご助力いただきました。当日の進行に関わっていただいた先生方、各施

設で実務実習生のご指導いただいた先生方、ほかにも多くの先生方のご協力をいただき、合同成果発表会を開催できました。そして、当日、参加いただいたみなさまに感謝申し上げます。記載いただいたアンケート結果を踏まえ、次回に反映させていきたいと考えております。

今後ともみなさまのご支援をよろしく申し上げます。



## 平成 29 年度 近畿国立病院薬剤師会学術大会 学術集会報告

東近江総合医療センター 朝日 信一

平成 29 年 3 月 18 日にハイアットリージェンシー大阪で学術集会が開催され、参加させて頂きました。7 演題の口頭発表の後、10 演題のポスター発表が行われました。

口頭発表の最優秀賞として『「柿蒂（シテイ）を考える」—吃逆の起こったがん化学療法患者に関わって—』が選ばれました。院内製剤である柿蒂の使用事例を解析され、院内製剤の特性を踏まえた処方傾向を深く考察された内容でした。

ポスター発表の最優秀賞として『「一般病棟用の重症度、医療・看護必要度」評価への薬剤師の貢献』が選ばれました。薬剤師が介入することで看護必要度が上がったとのことで、病棟と薬剤師の関係性がより深いものとなってきている印象を強く受け、具体的な介入の方法も提示されていました。

他の 15 演題についても、様々な角度から日常業務の改善を目指すような活気のある発表でした。

### <口頭発表>

#### 1. CSTD 導入による医療従事者の曝露防止対策

舞鶴医療センター 藤井 克至

#### 2. 「柿蒂（シテイ）を考える」—吃逆の起こったがん化学療法患者に関わって—

姫路医療センター 西村 真美

#### 3. エピルピシンの点滴時間短縮を目的としたソフトバックへの変更に対する検討

神戸医療センター 今西 貴子

#### 4. 回復期リハビリテーション病棟における処方代行入力の現状と医師評価

宇多野病院 澤村 忠輝

#### 5. 質の高い薬学的介入を目指して～プレアボイド報告より考える～

南和歌山医療センター 瀬戸 彩夏

#### 6. 持参薬鑑別バーコード認証による有用性についての調査

近畿中央胸部疾患センター 下川路 亮太

#### 7. 【ネットワーク研究報告】

多施設共同データベース研究の疫学研究体制について～HIS 蓄積データ二次利用～

大阪南医療センター 山口 崇臣

<ポスター発表>

1. 「一般病棟用の重症度、医療・看護必要度」評価への薬剤師の貢献  
舞鶴医療センター 窪田 彩花
2. 当院におけるプレアボイド報告収集体制の改善  
大阪南医療センター 横川 玲奈
3. トログリフロジン投与による体重および体組成変化に関する検討  
大阪医療センター 溝内 亜希子
4. Microsoft Excel を用いた年度末報告書作成ソフトの構築  
近畿中央胸部疾患センター 山本 幸枝
5. 脳卒中地域連携パスを利用した転院患者家族への退院指導介入  
京都医療センター 西村 容徳
6. 調剤過誤対策チームの活動がもたらす効果  
大阪医療センター 吉村 芙美
7. 新人薬剤師に対する教育研修の新たな取り組みの成果と課題  
京都医療センター 野田 拓誠
8. ニボルマブ治療中に糖尿病がコントロール不良に陥った一例  
南和歌山医療センター 藤本 亜弓
9. 病棟薬剤師・担当 MR による医薬品副作用報告体制の確立  
大阪南医療センター 松田 璃沙
10. 入院治験におけるクリティカルパス導入事例  
東近江総合医療センター 豊田 悠二



## 平成 29 年度 近畿国立病院薬剤師会学術大会 学術講演会報告

神戸医療センター 鷺田 依美里

### 特別講演 I

演題：関節リウマチ患者に対する薬剤師の取り組み

～リウマチ合同カンファレンスの活動報告～

講師：大阪南医療センター薬剤部 常倍 翔太 先生

関節リウマチの基礎知識、治療、リウマチセンター合同カンファレンスの活動、またリウマチ患者の服薬コンプライアンス、服薬状況等の研究内容についてご講演いただいた。



リウマチセンター合同カンファレンスとは、新潟県立リウマチセンター、兵庫県立加古川医療センターとともに行っているカンファレンスで、それぞれの施設に多職種で集まりカンファレンスが行われていることが紹介された。

またリウマチ患者に対して、薬剤師はコンプライアンスの確認、処方提案、必要に応じて自助具の提案等を行っているとの報告があった。服薬状況の研究について、抗リウマチ薬は薬剤の種類が多く用法が特殊な薬剤もあるが、服薬コンプライアンスは問題無いとの結果が報告された。しかし服薬動作に問題を抱えている患者が多いことから自助具を用いることで問題解決できるか検討していることが発表された。

### 特別講演 II

演題：関節リウマチのチーム医療の第一歩に向けて考えること～全人医療を目指して～

講師：大阪南医療センター免疫疾患センター部長 橋本 淳 先生



関節リウマチの病態、治療の歴史、リウマチ患者が必要としている医療、チームでの治療について、手術により患者の QOL が改善された症例を交え、ご教示いただいた。

リウマチ治療のゴールは、長期予後の改善、身体機能障害の防止、生命予後の改善を目指すことであり、リウマチは全人医療が必要な代表的な疾患である。

関節リウマチ患者の死因の 25% は感染症であり、繰り返す入院で廃用症候群となる場合や生物学的製剤を代表する薬物療法を中断することで、治療の継続や寛解困難となる場合も出てくる。感染症の治療とリウマチの治療を両方行うためにも、特に内科と整形外科の連携が大事となり、大阪南医療センターではリウマチロコモチェック外来で、連携して治療されている。また様々な症状のリウマチ患者の手術をするため手術部位別の専門の医師のチームがあり、手術を行うことで大幅な QOL の改善が得られた症例も多くある。他にもリウマチフットケアチームやリウマチ患者の妊婦、育児を考えるチームも存在する。

チーム医療に必要なことは、Professionalism である。医師、看護師、薬剤師、理学療法士

等チームで目的を共有できているということと、個人の能力を高めていることが必要である。そうすることで様々な合併症を予防的に回避することができる。

大阪南医療センターでは、今後チーム医療の一步として文献の抄読会を医師、薬剤師で行うことが報告された。



## 「平成 29 年度 新採用職員(コ・メディカル部門)研修」に参加して

姫路医療センター 溝口 捺美

4月19日から21日までの3日間、大阪医療センターで開催された「平成29年度新採用職員(コ・メディカル部門)研修」に参加致しました。この研修で、国立病院機構職員として求められること、医療人としての薬剤師、チーム医療での薬剤師の役割、他の医療従事者の仕事について学ばせて頂きました。

1日目は、薬剤部門の研修がありました。特に、「1秒先を読み取る力」が大切で、今、すべきことに対して先を見据えて考えることが求められるということや、それぞれの処方に対して、主治医の処方意図を考えることが重要であるということが印象に残りました。グループワークでは、「病識が浅く、人生に希望が持てず、治療に対して消極的な糖尿病患者さん」の薬物療法の問題点について話し合いをしました。患者さんに視力障害があるため、インスリン注射の補助具を勧める他、注射を嫌がっているので経口薬を勧める、病識が浅いので家族を含めて糖尿病についての説明を行う等、様々な意見が出ました。その講義の先生のお話の中で特に印象に残っている言葉があります。「処方を見るときは、処方1つ1つを考えるのではなく、全体として考えること。」私は、処方1つ1つを見て視野が狭くなりがちになっていたことに気づかされました。

2日目は、新採用コ・メディカルが班に分かれてグループディスカッションを行いました。私達の班は、「赤字の病院を黒字化させるには」という議題について話し合いました。班は、多職種により構成されているので、各々の職種別に出来ること、病院全体として取り組むべきことについて意見を出し合いました。薬剤部としては、薬剤師の取れる診療報酬を全て取ること、薬々連携を強化することで在宅医療を推進し、ベッドの回転を上げること、ジェネリック医薬品の使用を推進すること、医薬品の在庫管理を徹底しロスを減らすこと等の意見が出ました。どの職種にも共通して、患者さんに選ばれる病院になるために他職種との連携を強化し、より良いチーム医療を提供すること、個々の技術を上げることが重要であると感じました。他の班の発表で、選ばれる病院となるために医師の指名制度をとるという斬新な意見もあり、とても興味が湧きました。

3日目には、「接遇・コミュニケーション」の講義があり、身だしなみ、挨拶の仕方、電話対応、名刺の渡し方等を教えて頂きました。特に業務上電話を使う機会も多いので、正しい電話対応について知ることが出来、社会人としてのマナーを身につける良い機会となりました。

この3日間の研修を通じて、医療人としての薬剤師の心構えや社会人としてのマナーを学び、また薬剤師だけではなく他の医療従事者と交流することで、他職種の業務について知ることが出来ました。チーム医療は、多職種の連携によって成り立っていると改めて感じました。

まだまだ薬剤師として、社会人として駆け出しですが、この研修で学んだことを活かして成長していきたいです。最後になりますが、この3日間、研修を主催してくださった先生方、講義をしてくださった先生方に感謝申し上げます。ありがとうございました。

## 「平成 29 年度 新採用職員(コ・メディカル部門)研修」に参加して

神戸医療センター 桶谷 芳里

4月19日から21日までの3日間、大阪医療センターで開催された平成29年度新採用職員(コ・メディカル部門等)研修に参加させていただきました。この研修を通して国立病院機構職員としての自分たちに求められる役割や、他のコ・メディカルスタッフ等との関わり、社会人としてのマナーなど多くのことを学ぶことができました。

1日目の部門別研修では、新人薬剤師を対象に薬剤師の果たすべき役割や、チーム医療、病棟業務についての講義がありました。午後のグループワークでは実際にあった「病識、薬識の低い糖尿病患者さん」の症例を検討し、問題点や、どのような管理を実施すればよいかなどをまとめ、発表しました。私の班では患者さんにもっと治療に積極的になってもらうために、また、家族の理解と支援を受けるために奥さんとともに糖尿病教室に通ってもらう、視力が低下しているためにインスリン注射に拡大鏡を交付する、点眼薬の取り扱いを指導し直すなど、様々な意見が出ました。限られた時間の中で問題点をすべて見つけ、改善策を挙げるのは難しく、まとめた内容が十分であったとは言えなかったと思います。しかし意見交換やディスカッションを通して自分では気づかなかったことも意見に上がり、非常に勉強になりました。また、先生方の解説を聞くことで、こういった症例に対して患者さんの病態はもちろんのこと、「なぜこの薬は出ているのか？」という薬ひとつひとつに対するより深い理解が求められるということを実感しました。

2日目、3日目の集合研修では、他職種計11人を交えてのグループワークを主に行い、自分の職種と業務内容、また他職種とどのように関わっているかを紹介しました。班別討議では私たちの班は「上司、部下、他部門等と良好な関係を築くには」というテーマで各々役割分担して話し合い、発表しました。全体を通して、普段の業務ではあまり関わることのできない職種に対して興味を持ち、良く知ることができる非常に貴重な機会となりました。普段思っていることや実践していることなど意見交換でき、新たな視点を得ることができたと思います。

最終日に行った接遇・コミュニケーションの講義では、挨拶や礼の仕方、電話対応や名刺の受け渡し方など、知りたかったけれど教えてもらう機会がなかったビジネスマナーについて学ぶことができました。普段から実践できそうなことからチャレンジしていきたいと思います。

部門別研修では薬剤師業務に対する理解が深まりましたし、こういった職種を超えた交流ができる機会を持てたことはとても有意義であり、今後もこのような機会があれば大切にしていきたいと思っています。最後に今回の研修で講義、演習を担当してくださった先生方に心よりお礼を申し上げます。自分はまだまだ駆け出しの薬剤師ですが、本研修で学んだことを今後もしっかり役立てていきたいと思っています。

## 「第 32 回 日本静脈経腸栄養学会」に参加して

姫路医療センター 中西 剛志

平成 29 年 2 月 23 日(木)から 2 月 24 日(金)の 2 日間、岡山県にて開催された第 32 回日本静脈経腸栄養学会に参加しました。さすがに 18,000 名を超える会員を有する栄養関連学会ともあって会場は、岡山シンフォニーホール、岡山市民会館、ホテルグランヴィア岡山、ラヴィール岡山、ANA クラウンプラザホテル岡山、岡山コンベンションセンター、岡山県医師会館、岡山国際交流センター、おかやま未来ホール、岡山シティミュージアムと多く、会場間を路面電車で行き来するほど広い範囲で行われました。

今大会のメインテーマは「全ては患者様のために -All for patient-」と医療人の原点のようなテーマで改めて何を目的として医療貢献すべきなのかを考える契機となりました。また、この学会は他職種協働を感じられる場であり、普段は自身の勤めている病院に専門の診療科がないと聞くことのできない話や、薬剤師だけではなく医師・看護師・管理栄養士等の意見を聞けるのはとても有意義に感じました。シンポジウムでも活発な意見が飛び交う場面もみられ薬剤師だけの学会とは違う刺激を受けられると感じました。

輸液関連のシンポジウムでは脂肪乳剤の適正使用、腎障害のある患者への TPN のアミノ酸製剤の投与設計の考え方について添付文書や教科書よりも一歩踏み込んだ話が聴講できました。シンポジウムでの質問の時間では各施設の輸液の使用状況を聞くことができ、実際に腎臓内科医の見解を聞けたりし、これからの業務や後輩への教育に活かせると思いました。またポスター発表では治療開始前のアルブミン値を 2 群に分け経口抗がん剤の治療継続期間・副作用による治療中断率の比較をしている研究のように薬剤師ならではの発表も参考になりました。

今回は傾聴でしたが、まだまだエビデンスの構築されていない分野があるのだと改めて気付かせてもらったので少しでも貢献できるような研究をしていきたいと思います。



## 「日本臨床腫瘍薬学会学術大会 2017」参加報告

神戸医療センター 中本 有香

平成 29 年 3 月 18 日（土）、19 日（日）の両日、朱鷺メッセ（新潟市中央区）におきまして、日本臨床腫瘍薬学会学術大会 2017 が開催され、参加させていただきましたのでご報告させていただきます。

第 5 回目となる本大会のメインテーマは「がんと生きる時代 ～薬剤師が紡ぐがん医療～」でした。

今や 2 人に 1 人ががんに罹患すると言われていますが、診断技術や治療技術の進歩とケアにより長く生きることが可能となり、治癒には至らなくても「がんと共に生きる」時代になりました。治療を続けながら通常の生活ができるよう病院と在宅をシームレスにつなぐ医療連携が益々重要になっており、糸を紡いで布にするように、多職種を織り交ぜて医療連携を充実させたい、このような思いが今回のテーマに込められています。

また、細胞障害性抗がん薬、ホルモン薬、分子標的治療薬、免疫療法とがん薬物療法は画期的に進歩し、特に免疫チェックポイント阻害薬はがん治療のパラダイムシフトを起こしたと言われていています。新しい機序のがん治療薬が続々と登場しており、がん薬物療法を担う薬剤師の役割や責務は、ますます大きなものとなっております。

今回の学会では、当院からも「エピルビシンの点滴時間短縮を目的としたソフトバックへの変更に対する検討」という内容でポスター発表を行いました。プラボトルからソフトバックへ変更することで、バック内の液体の用量が多くても陰圧になることなく投与可能、投与時間の短縮、血管障害の減少につながり、血管障害の予防のために有用であるという結果が得られました。

この学会を通し、日々の業務の中で、より良い医療が提供できるように、より一層取り組んでいきたいと感じました。



## 「第4回 重症心身障がい児・者に関わる薬剤師講習会」を受講して

兵庫あおの病院 赤井 裕子

平成29年4月15日（土）～16日（日）に心身障害児総合医療療育センター 療育研修所（東京都）で開催された「第4回重症心身障がい児・者に関わる薬剤師講習会」を受講しましたので報告します。

この講習会は、日本重症児福祉協会 重症心身障害児施設職員研修会「薬剤師分科会」活動のひとつで、「重症心身障がい児・者に関わる薬剤師に対し、必要な知識の向上と相互の情報交換を図ること」を目的とし、厚生労働省委託で平成26年から毎年開催されています。対象施設は医療型障害児入所施設、医療型児童発達支援センター、療養介護施設、国立病院機構、一般病院などです。

受講者は42名で、北は北海道、南は鹿児島県まで、全国の重症心身障がい児・者に関わる施設、病院、保険薬局に勤務する薬剤師で、第1回講習会より毎年受講の方もおられました。国立病院機構からは当院を含めた5施設の参加でした。当院は第2回講習会より毎年受講しています。

講習会は、オリエンテーション・開講式にはじまり、「障害児・者医療における他職種連携を考える」をテーマとして、医師・歯科医師・看護師・作業療法士・言語聴覚士・栄養士・薬剤師の他職種による講義でした。歯科医師の講義では「障害児者の摂食嚥下リハビリテーション概論」と題し、咀嚼について、誤嚥（声帯よりも下に液体や食物などが入ること）と”むせ”との関係について、解剖学やVF（ビデオ嚥下造影）検査・VE（ビデオ内視鏡）検査について、実際の検査動画も見せて頂きました。看護師の講義は、「療育環境でのチーム医療の考え方」と題し、医療法上は病院であることが前提で、医療が生活に必要であることが条件であり、この場合の医療とは、生活を支え、発達を促進するという広い視点を含む療育の一部を構成する医療であるという内容でした。また、看護療育の実際として重症児・者の観察についてのお話もありました。てんかん治療専門医の講義は、「てんかん治療の薬物療法-考え方と新薬の重要性」と題し、てんかんの診断・発作型分類・病因分類・治療について、また、てんかん治療は、てんかんと診断した後が勝負で、正しい発作型・病型・原因診断が正しい治療の鍵であること、新薬承認速度は加速しているが、新たな作用機序、高い有効性、安全性、認容性をもつ薬剤はまだ不十分であり、新薬開発研究のさらなる活性化が必要である、てんかん治療の主軸は、生活指導、患者・家族の全人的ケアである、という内容でした。薬剤師の講義では、専門医が不在であった療育施設で、専門医が着任したことを機会に「てんかんカンファレンス」を医師・看護師・検査技師らと始め、症例検討を行った結果、長年、全般発作の薬物治療が行われていた患者が、部分発作であったことが判明した症例の提示がされました。

講習会の最後には、事前に提出した業務の問題点や質問などについてディスカッションも行われ、日頃の問題点や業務の実情が話され、共通の業務上の悩みがあることや、施設によって人員や業務の実情が異なることもわかりました。

当院では、年2回の個別面談日に家族が来院される機会を利用して、重症心身障がい児・者の家族への服薬指導を実施しています。この講習会により得た知識や情報を活かして、業務の改善・充実を図りたいと考えます。



## 新採用者紹介

～①氏名 ②施設 ③座右の銘、好きな言葉 ④抱負～

①川上 侑希(カワカミ ユキ)

②大阪南医療センター

③「七転八起」

④4月に大阪南医療センターに入職し、まだまだ不慣れなことも多く調剤技術等も未熟ですが、支えてくださる先輩方からたくさんの事を学び、一人前の医療人になれるよう日々精進を重ねたいと思います。ご迷惑をおかけすることも多々あると思いますが、ご指導ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。

①難波 優希(ナンバ ユキ)

②大阪南医療センター

③「人に交わるには信をもってすべし」

④4月から大阪南医療センターに配属になりました難波優希です。まだまだ失敗すること、わからないことがたくさんあり、ご迷惑をおかけしておりますが、先生方から様々なことを教えていただきながら、日々業務に励んでいます。どんな時でも学ぶ姿勢を忘れず、患者様の治療に貢献できる一人前の薬剤師になれるよう頑張ります。ご指導よろしく願いいたします。

①三浦 菜々子(ミウラ ナナコ)

②大阪南医療センター

③「生きることは生きぬくこと」

④本年度から新たに大阪南医療センターに入職させて頂きました、三浦菜々子と申します。日々の経験や失敗を自らの学びに変え、1日でも早くジェネラリストとして働けるよう精進して参りたいと思います。至らない点が多いかと思いますが、ご指導のほど宜しく願い申し上げます。

①磯野 悠也(イソノ ユウヤ)

②姫路医療センター

③「明日はきっといい日になる」

④まだ働きだして間もないので、早く仕事を覚えて病院や他の医療従事者の方々の役に立ちたいです。薬のジェネラリストを目指して頑張りたいと思います。

- ①貝野 陽奈(カキノ ハルナ)
- ②姫路医療センター
- ③「やらない後悔よりやる後悔」
- ④コミュニケーション力をもっと向上させたいです。

- ①溝口 捺美(ミゾグチ ナツミ)
- ②姫路医療センター
- ③「為せば成る」
- ④いろいろなことに積極的に取り組み、初心を忘れず成長していきたいと思います。

- ①足立 紗知(アダチ サチ)
- ②大阪医療センター
- ③「思い立ったが吉日」
- ④4月より大阪医療センターで勤務しています足立紗知です。患者さんからもスタッフの方々からも信頼される薬剤師を目指して日々努力して参ります。至らない点もまだまだ多くご迷惑をおかけすることもあると思いますが、よろしくお願ひ致します。

- ①井後 星哉(イゴ セイヤ)
- ②大阪医療センター
- ③「千里の道も一歩から」
- ④4月から大阪医療センターに配属となりました、井後星哉です。まだまだ分からないことも多く皆様にはご迷惑をおかけしておりますが、薬剤師としてより貢献できるように日々精進してまいりますので、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願ひいたします。

- ①交久瀬 綾香(カタクセ アヤカ)
- ②大阪医療センター
- ③「1日1日を楽しむ」
- ④4月から大阪医療センターに配属になりました、交久瀬綾香です。バレーボールや水泳が好きで、社会人ではテニスに挑戦したいと思っています。至らない点が多々ありご迷惑をおかけすると思いますが、早く一人前の薬剤師になれるように頑張ります。よろしくお願ひ致します。

①清水 彩加(シミズ アヤカ)

②大阪医療センター

③「努力は裏切らない」

④このたび、大阪医療センターに配属となりました清水彩加です。毎日先生方にはご迷惑ばかりかけていますが、同期4人とともに元気よく切磋琢磨しながら成長していきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

①桑原 明日香(クワハラ アスカ)

②南京都病院

③「為せば成る、為さねば成らぬ」

④4月より南京都病院でお世話になっている桑原明日香です。まだ分からないことばかりで周りの先生方にご迷惑をおかけすることが多いですが、何事にも積極的に取り組み、薬剤師として成長できるように日々努力していきたいと思っておりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

①東 里奈(アズマ リナ)

②刀根山病院

③「本気の失敗には価値がある」

④4月より刀根山病院に配属されました東里奈と申します。分からないことも多く、先生方のご指導を受けながら日々勉強しております。熱意を持ち続け、何事にも全力で取り組んでいきたいと思っております。至らない点も多いかと思っておりますが、どうぞよろしくお願いいたします。

①半井 春香(ナカライ ハルカ)

②京都医療センター

③「継続は力なり」

④珍しい名字ですが、半井と書いてナカライと読みます。実務実習でお世話になった京都医療センターにそのまま配属させていただき、実習とは違う緊張感でいっぱいの毎日をごしております。先輩薬剤師の先生方のように、目の前のことに集中してテキパキ業務をこなせるよう精進致します。

①岡 知代(オカ トモヨ)

②京都医療センター

③「明日があるさ」

④はじめまして。岡知代です。入社して1ヶ月、先生方のテキパキさを実感しています。丁寧に正確にそしてスピードがついてくるように毎日一生懸命頑張りたいと思っております。ご指導よろしくおねがいします。一人暮らしをしているので自炊や勉強を頑張り、私生活も充実させたいです。

①柴 俊輔(シバ シュンスケ)

②京都医療センター

③「無理して失敗するより、無理せず確実に」

④未熟なところが多く、周りの先生方に迷惑をおかけすると思いますが、成長できる部分があると思って勉強をしていきたいと思っています。また自分の目標のための勉強も怠らずに日々努力しますので、よろしくお願いします。

①金崎 美貴(カナザキ ミキ)

②南和歌山医療センター

③「昨日より楽しく生きる」

④入職して1ヶ月が経ちましたが、失敗が多く毎日学ぶことばかりです。わからないことはその場で解消し、確実に成長していきたいです。少しでも早く医療に貢献できる薬剤師になれるよう、頑張ります。

①上柳 汐果(カミヤナギ シオミ)

②近畿中央胸部疾患センター

③「時は金なり」

④初めまして。近畿中央胸部疾患センターに配属となりました上柳汐果と申します。入職して早一カ月が経ちましたがまだまだ慣れないことが多く、毎日多くのことを学ばせて頂いている日々を送っています。一日一日を大切にして、少しでも早く薬剤師として、他の医療スタッフや患者さんの役に立てるように頑張りたいと思っています。よろしくお願いいたします。

①関口 知弘(セキグチ トモヒロ)

②近畿中央胸部疾患センター

③「一生懸命」

④国立病院機構に就職できたこと、また多くの同期と共に社会人としてスタートできたことを嬉しく思っております。今は一日でも早く仕事を覚え、自分に出来ることを増やしながらどんな業務も一生懸命に頑張っていこうと思っています。また、胸部専門病院の配属となったので、この機会を大切にしてこの病院でしかできないことを学んでいこうと考えています。将来的にはチーム医療の中で活躍できるような薬剤師を目指して日々努力していこうと思っていますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

①田中奈桜(タナカ ナオ)

②舞鶴医療センター

③「あせらず くさらず あきらめず」

④四月より入職いたしました田中奈桜と申します。

まだまだ学ばなければならないことばかりで、薬剤部の先生方にはご迷惑をおかけする毎日ですが、少しでも早く薬剤部の戦力となれるよう、また患者さんの健康に貢献できる薬剤師になれるよう、精進してまいります。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

①山本 友佳子(ヤマモト ユカコ)

②敦賀医療センター

③「公明正大」

④4月から敦賀医療センターでお世話になっている山本友佳子です。わからないことだらけの毎日ですが、先輩方に支えられながら日々励んでいます。早く一人前の薬剤師になれるようがんばりますので、今後ともよろしく願います。

①杉野 太亮(スギノ タイスケ)

②国立循環器病研究センター

③「継続は力なり」

④4月より国立循環器病研究センターに配属になった杉野太亮です。

仕事を初めて1カ月が経ち、業務にも少し慣れてきましたが、まだまだ覚えることも多く、先生方にはお世話になってばかりですが、日々学んだことや教えて頂いたことを自分の成長に繋げていきたいと思っております。

①成川 麻衣(ナルカワ マイ)

②国立循環器病研究センター

③「継続は力なり」

④4月より国立循環器病研究センターに配属になりました成川麻衣です。今はまだ仕事に慣れ、覚えることで精一杯ですが、積極的に取り組み、成長していきたいと思っております。至らない点も多いかと思っておりますがご指導のほどよろしくお願い致します。

①西中川 遥(ニシナカガワ ハルカ)

②国立循環器病研究センター

③「親しき仲にも礼儀あり」

④国立成育医療研究センターでレジデントを2年経験し、循環器疾患についてもっと学びたいと思い、循環器病研究センターの門を叩きました。機会をいただけたことに感謝し、患者さんに貢献できる薬剤師になれるよう日々精進して参ります。何卒よろしく願いいたします！

①中尾 令子(ナカオ レイコ)

②国立循環器病研究センター

③「置かれた場所で咲きなさい」

④この春から、国立循環器病研究センターで勤務させていただいている中尾令子です。まだまだ、先輩方のご指導や助けがないと業務をこなすことができない私ですが、新人の今だからこそ、一緒に働く皆様の人としての優しさや医療人の先輩としての責任感に直接触れることが出来ます。この貴重な時期を大切に過ごしながら、病院薬剤師として成長していきたいと思っているので、どうぞ厳しいご指導をお願いいたします。

①門脇 侑子(カドワキ ユウコ)

②国立循環器病研究センター

③「試さずに後悔するより試してみて後悔（何事にも積極的に挑戦してみる）」

④5月から国立循環器病研究センターのレジデントとして勤務させて頂くこととなりました。まだまだ分からないことが多い上、遅れて入った分、先生方にご迷惑をおかけすることが多いのが現状です。一歩ずつではありますが、確実かつできるだけ早く薬剤師業務の習得できるよう努めていきたいと思っております。また、“専門的かつ先進的な医療を提供されている施設”という大変恵まれた環境で学び働かせて頂いているということを常に意識し、自己研鑽に励んでゆきたいと考えております。

患者様・医療スタッフの皆様から必要とされ、お役に立てるような薬剤師になれるように精一杯努めて参りますので、何卒、今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願いいたします。

①櫻井 さくら(サクライ サクラ)

②神戸医療センター

③「やった者勝ち」

④配属から1ヶ月が経ち、まだまだ分からない事が多く先輩方には迷惑ばかりかけていますが、1日でも早く業務を覚え効率良く業務をこなし、知識の面でも日々多くの事を学び吸収し、一人前の薬剤師になれるように頑張ります。これからよろしく願いします

①桶谷 芳里 (オケタニ カオリ)

②神戸医療センター

③「日進月歩」

④神戸医療センターに配属されて一月経ちましたが、まだまだ未熟者で周りの先生方には毎日たくさんご指導いただいています。今は新しいことを覚えたり、手際よく業務をこなすのに精一杯ですが、一日も早く皆様のお役にたてるように頑張りますのでどうぞよろしくお願いたします。

①東 里映(アズマ リエ)

②東近江総合医療センター

③「日々精進」

④4月より東近江総合医療センターに配属されました、東里映です。趣味はバイオリンですが、最近、遠のいているので練習を再開したいと思っています。病院実習のとき京都医療センターでお世話になったことをきっかけに、国立病院機構への就職を決意しました。先生方にはご迷惑をお掛けすることが多いと思いますが、ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。

①上野 由貴(ウエノ ユキ)

②東近江総合医療センター

③「チャレンジあるのみ！」

④本年度より配属されました。物作りが好きで、春から洋裁を習っています。業務では迷惑ばかりかけていますが、早く独り立ちできるよう励んでいきます。ご指導宜しくお願いたします。



## 趣味のページ～パンダにならないように～

京都医療センター 小田 亮介

この度バトンを引き受けました、京都医療センターの小田です。改めて、自分の趣味は何かと振り返った時、色々と思ひ浮かびましたが、一番思い入れがあるのはモータースポーツ観戦(特に四輪)です。

父親の影響で、小さな頃からモータースポーツを見る機会はありましたが、一気に興味を持ったのは、高校生の時に友人と鈴鹿サーキットにF1観戦に行ったことです。車やバイクが好きな人の中には、見た目のカッコよさやスピード感などに惹かれる人も多いですが、私はその排気音(エキゾーストノート)に魅了させられた一人です。あのサウンドを味わった事のある方ならご存じと思いますが、あの迫力はテレビでは決して伝わりません。一度経験されることをおススメします。

以降、鈴鹿サーキットには足繁く通いました。F1も何度も見に行きましたが、特に興味をもったのは、SUPER GTです。その中でも毎年8月の終わりに鈴鹿で行われるレースには少し前まで欠かさず観戦しに行っていました。シリーズの中で最長の約1000km(新大阪ー東京間の往復程度の距離)を、真夏の炎天下の中、正午過ぎから18時過ぎまで全速力でぶっ飛ばします(約6時間走って、トップと2番手の差は1秒程度!!)。

お気づきの方もいらっしゃると思いますが、真夏の昼間にずっと屋外にいれば、かなり日焼けします。高校生、大学生の頃は全然気にしたことはありませんでしたが、真っ白な白衣に日焼けは似合いません。翌年からは、しっかり日焼け止めを塗りたくって参加するようになりました。最近では、サーキットを訪れる機会も減りましたが、またチャンスがあれば、あのエキゾーストノートを味わいに行きたいと思います。

今回は、循環器病研究センターの白井先生にバトンを引き継がせていただきます。



## 編集後記

- ♪新年度が始まり 2 カ月がたちました。異動や採用になられた先生方は職場に十分馴染まれたでしょうか。6月に入れば、梅雨となりますので体調にはくれぐれもお気を付け下さい。
- ♪浅田真央さんが引退することとなりました。フィギュア大国日本の一時代を築いた彼女の功績は大きかったですね。
- ♪秋篠宮眞子さまが婚約されました。とてもおめでたいですね！！お相手が大学時代の同級生というところも更に素敵です。
- ♪史上最年少でプロ入りした将棋の藤井聡太四段(14)が、5/18に連勝記録を18に伸ばしました。ちなみに、将棋連勝記録歴代1位は神谷広志八段の28連勝だそうです。この連勝記録を更新するのは難しいでしょうが、期待しています。
- ♪新年度最初の会誌です。今月号は、部長提言、薬剤部紹介、薬剤師会学術集会、特別講演会、合同成果発表会、学会・研修参加記、新規採用者紹介や趣味のページなど、いつも以上に充実した読みごたえのある内容となっています。今月もぜひ最後までご熟読ください。

(T.H)

近畿国立病院薬剤師会ホームページ <http://www.kinki-snhp.jp/>

近畿国立病院薬剤師会会誌

第五十号 平成 29 年 5 月発行

発行元 近畿国立病院薬剤師会事務局

大阪市中央区法円坂 2-1-14

(独立行政法人国立病院機構大阪医療センター薬剤部内)

発行人 会長 本田 芳久 (大阪南医療)

編集 広報担当理事 本田 富得 (東近江総合医療)

広報委員 高原 由香 (刀根山)

竹松 茂樹 (京都医療)

中西 彩子 (近畿中央胸部疾患) 岩槻 瑠美 (南和歌山医療)

竹原 健次 (兵庫中央)

村津 圭治 (神戸医療)